

第1回町田市生涯学習センター運営協議会委員  
まちだ市民大学HATSプログラム委員打合せ 記録

日 時 2023年10月3日(水) 17:00~18:30  
会 場 町田市生涯学習センター 学習室7

参加者：S委員(オンライン)、T委員、U委員、V委員、W委員、X委員  
事務局：西久保センター長、石井担当課長、佐藤事業係長、世良、山本

◆配布資料

- 【資料1】 2024年度生涯学習センター事業について
- 【資料2】 2024年度事業案(別表)
- 【資料3】 「生涯学習ニーズ」に関する町田ちょこっとアンケート実施結果
- 【資料4】 「生涯学習ニーズ」に関する町田ちょこっとアンケート集計結果
- 【資料5】 2024年度市民大学事業計画(案)
- 【資料6】 出席者名簿

(用語の表記)

- 市民大学 = まちだ市民大学 HATS
- 運協 = 町田市生涯学習センター運営協議会
- 施設改修 = 2024年度後期に実施予定の生涯学習センター大規模施設改修
- 自然講座 = まちだ市民大学 HATS 多摩丘陵の自然入門講座
- 歴史講座 = まちだ市民大学 HATS 町田の歴史講座
- 福祉講座 = まちだ市民大学 HATS まちだの福祉講座
- 環境講座 = まちだ市民大学 HATS まちだの水とみどり入門講座(前期)  
及び まちだのまちとくらしのエコ入門講座(後期)

●事務局挨拶

2024年度から施設改修により休館しなければならない、市民大学もやり方を変える必要がある。市民大学事業を根本的にどうするかは後ほど議題にあげていく予定であるが、休館になるにあたっての当面の手法について、意見を伺いながら考えていきたい。

●事務局

担当職員紹介

## 1 報告事項

### (1) 2024年度生涯学習センター事業について

#### ●事務局

以下の資料に沿って説明。

- ・【資料1】2024年度生涯学習センター事業について
- ・【資料2】2024年度事業案（別表）

### (2) ちょこっとアンケートの実施について

#### ●事務局

以下の資料に沿って説明。

- ・【資料3】「生涯学習ニーズ」に関する町田ちょこっとアンケート実施結果
- ・【資料4】「生涯学習ニーズ」に関する町田ちょこっとアンケート集計結果

### 【1. 報告事項(1)(2)に対して質疑応答】

#### ○V委員

ちょこっとアンケートは、どういう方式で行ったのか。

#### ●事務局

ちょこっとアンケートの回答者は市のホームページで募集している。今回は、予め登録されている方2,189名に向けてメールで配信し、回答いただいた。

#### ○V委員

回答者の世代は資料からわかるが、登録者全体の世代の割合は分かるか。

#### ●事務局

正確には把握していないが、他のアンケートの回答結果から推測するにも、年代は40～50代、性別は女性が多いので、登録者もおよそ回答者に近いと考えている。

#### ●事務局

補足として、ちょこっとアンケートはニーズ調査の一つであって、これからも別途調査は実施していく予定である。例えば、センターまつりや駅周辺のイベントの際に対面でお伺いするニーズ調査も実施していきたい。その他の調査結果も引き続き運営協議会などで示していきたい。

## 2 議 題

(1) 2024 年度市民大学事業計画 (案) について

### ●事務局

以下の資料に沿って説明。

・【資料 5】 2024 年度市民大学事業計画 (案)

【以下、2024 年度市民大学事業計画 (案) に対する議論】

### ○W委員

施設改修の工事期間ははっきりしないが、前期は生涯学習センターを使えるのか。

### ●事務局

施設改修は早くても 10 月頃に始まる予定のため、前期は使える。

### ○S委員

講座の回数が減っていることに驚いている。これは 2024 年度の臨時的な回数なのか、それとも 2025 年度以降も同じ回数の予定なのか。

### ●事務局

今は 2024 年度の予定として示している。その後の回数については、2024 年度に実施する中で、受講者の反応やニーズを探りながら検討することを考えている。

### ○S委員

自然講座のケースでは、回数が減る中で前期・後期を分け、それぞれオープニングとまとめの回を設けることを考えると、通常の間がかなり少なくなる。前期・後期を分けず通年として、後期に追加募集を行う方が良いと思う。

それから、アンケート結果から、職員企画でお金のことや仕事のことを付け加えるのは意欲的だと思うが、一方で様々な民間企業や金融機関でも実施しており、市役所が重複して行うのは、民業圧迫的なことにならないか気になる。そのような形で増やしてまで、既存の講座の回数を減らすのは、プログラム委員たちの納得を得られるのかは気にかかる。

### ○T委員

S 委員のお話をもっともで、始めにオープニング、最後にまとめを行うと、あとは 2 回しかない。それは今後考えていくべきことだが、やはり 1 年間通し

て受講することはハードルが高いと思う。後半に参加人数が減るのはそういう事情もあるかもしれない。そこで、短期間で学習を積み重ねていく形をとれば受講のハードルが下がり、裾野を広げる意味になる。また、定員が100人という設定も裾野を広げる意味で効果があると思う。夜間の使い方や地域へのアウトリーチなどを工夫することで裾野を広げて、現在の市民大学の固定の受講者だけでなく、公平に多くの人に来てもらうのは良いことだと思う。一方でS委員のお話もよく理解できるので、どのようにクリアしていくかは今後の課題だと思う。

### ○U委員

まず、回数を短くするのは悩ましいと思っている。市民大学では、地域で問題意識を持って活動してくれる人が生まれることを考えていて、受講者同士で新しいグループを作ることも期待している。しかし、講座回数が短くなると、同じ講座を受けた人たち同士の関わりが少なくなり、グループを作りにくくなると思う。全国的な傾向としても、生涯学習センターや公民館での講座が短期間化しているが、一方では人と人とのつながりが作りにくくなっている。回数を短くするのであれば、市民大学で考えている将来的に地域で活動する人が生まれて輪を作るという点を、どう工夫して担保するのかを考えておく方が良いと思う。

次に、お金、仕事、余暇は、大事なテーマではあるが、どういう切り口でこのテーマに切り込むのか。例えば、仕事のことでは、学生の講座企画でもよく出てくるテーマに就職活動がある。学生には、大学のキャリアセンターや、ハローワークと同じ内容であれば、公民館や生涯学習センターでやる必要はないので、違う切り口を考えるよう話をしている。

また、仕事のことといっても、大学生が抱えている就職活動の悩みと、既に働いている人が抱えている仕事の悩みは違うので、20代から50代という捉え方をすれば、世代によりかなり悩みや課題が違う。そこで、どこにターゲットを設定するのか、どんな悩みや課題に応える講座を作るのかを絞っていかないと、誰に来てほしい講座なのかが分かりにくいと思う。例えば、就職活動をテーマとすると、就職活動は基本的に苦しいものだという意識が学生の前提にはある。そこで、生涯学習センターとして来てくれた人と一緒に考えたいのは、苦しいものの乗り越え方なのか、それとももっと違う就職活動、働き方、生き方を考えることなのか。参加者たちと考えたいことや目指したいことが何なのかを練っていく必要がある。一般的な就職活動を乗り越えるための講座では、大学のキャリアセンターなどとの差別化はできないだろうと思う。就職する、働きに出ることには色々なルートがある。今年の就職活動をやめた学生が、興

味がある会社に「来年」の募集があるか聞いてみたら、一度来てみないか誘われ、その年に就職が決まったというケースがあった。当たり前のやり方ではない方法で仕事を見つける学生もいる。就職活動も含めて、生きる、働くなど少し幅広くとらえることもできる。

やはり、誰に来てほしくて、どんな切り口で何を設定してくのか、何を気にして、どんな問題意識なのかが分かりづらいので、そこをつめていく必要があると思う。

#### ○T委員

生涯学習センターとしては、例えば商工会議所など、外部と連携・共同して実施するのはどうか。そういうやり方を進めていくと、ハローワークでやっている講座とは重複しない。

#### ○V委員

役割としてある、学びの裾野を広げることを中心に4回講座というのが出てきたのか。というのは、1回目に導入があり、最後に反省というのが通常の講座であった。そうではなく、ここでは裾野を広げることによって人が集まり、4回講座で色々なことを注入するが、その次のフォローはどうするのか。無くなってしまうのか。時代の流れとして、講座を受けた後に他の人と絡むことは考えてないという人が多いなら、これはこれでよい。

次に、ことぶき大学はなくなるのか。ことぶき大学の受講者が市民大学に流れてくるのか。

#### ●事務局

ことぶき大学という枠はなくなるが、今のことぶき大学の受講者のニーズは、余暇の過ごし方や健康のテーマのところ拾っており、受講は見込んでいます。

#### ○V委員

自然、歴史、人間、健康というテーマは、ことぶき大学のプログラムに入っているのではないかと。今のことぶき大学の受講者が流れてくるとしたら、裾野を広げることになるのだろうか。裾野を広げることは大切だと思っているが、1つやめても1つ同じものを作ったら、同じ人が流れていくような気がする。

もう一つ、今、地域団体は増えてきている。目的が、生活というよりも生きるというところへの支援が広がってきている。余暇の過ごし方や生きがいというテーマは、正しくその中に入ってくる。地域で無料運行する団体を育てるためのドライバー研修を行っているが、65から70歳代の方がたくさんの人

が来ている。余暇の過ごし方に興味のある方は多いと感じている。

#### ○T委員

ことぶき大学は、一定年齢（60歳）以上の方が優先の講座である。今は一定以上の年齢と言っても元気な方が多いので、既にことぶき大学受講者が市民大学にも入ってきているのが実情であり、市民大学では、高齢者が相当な割合を占めている。ことぶき大学が無くなることは、高齢者を切り捨てるように見えてしまうので、高齢の方を優先する枠を色々なところに作れば良いのではないか。

高齢者は実際に元気な方が多いので、どこにでも入ってきているが、学生や現役世代の人たちにとっては、平日の昼間開催の講座は、そもそも受講する対象にならない。学生や現役世代の人が作っている会では、夜7時など仕事が終わってから参加できるよう工夫している。職員の対応などの問題は出てくるだろうが、そのようなことを考えることが、若い人達を取り込み、裾野を広げることにつながっていく。

#### ○W委員

働いている人は夜6時くらいまで仕事をしている。Zoomで実施する講座であれば、会場の片付けなどもないので、夜間の遅い時間でも開催できるのではないか。自宅で受講できるし、お年寄りでもZoomができれば参加できる。

次に講座回数について、施設改修が理由であれば、前期は今までと同じ8回で実施できると思うが、回数は予算の関係で削ったのではないか。後期は小学校の空き教室などを会場にして実施する方法もある。

#### ○T委員

講座回数が減ることについて、一本の講座を単純に半分に分けて実施すると考えなくてもよい。少し重複する部分もありながら、何回も積み重ねていくなど、講座によって作り方を工夫することも考えられる。

#### ○W委員

歴史講座では通史を行っている。これを4回で行っていくのは無理があるので、テーマ別の講座をやることになると思うが、今までテーマ別は臨時的な実施であった。

#### ○X委員

全てがうまくいく案を考えるのは難しい。私は興味がある講座には参加して

いるが、現状は同じ人が重複して受講している人が多く、来ない人は来ないように見える。そこは何とかしたい。年代が離れると物の考え方、受け取り方が違うように感じるので、そこには難しさを感じる。

#### ●事務局

若い方向けに講座を実施することも運営見直し実行計画の中で求められているため、回数自体は減らす必要があると考えている。その後のフォローについても含め、適切なやり方を考えていきたい。

生涯学習センターを知らない方も多くいるので、まずは学びの入り口として知ってもらい取り組みをしていきたい。また、ご意見いただいたとおり、民間と同じような講座をやるのではなく、生涯学習センターだからこそできる講座を考えていきたい。

次に、ことぶき大学がなくなり、市民大学に受講者が流れてきても、ホールなどの大きい会場を使うことで受け入れられると想定している。

市民大学の地域団体の参加、新しい団体活動への発展については、それぞれの講座単位で考えると、回数が減ることで難しくなるというご意見はそのとおりだが、全体としては福祉講座、環境講座に設けるゼミを活用したいと考えている。学びの入り口としてライトな講座を受けてもらい、その後に学びを深める活かすと位置づけた講座に誘導していくことで、団体活動へとつなげていけるとよい。一方で、皆さんにいただいた課題については、再度検討をしていきたい。

#### ○T委員

ことぶき大学は、市民大学と一緒にする形でなくなるが、二つを合わせた講座数は減ってしまうのか。講座数を減らすと受けられない人がでてしまうのでは。講座数を確保したうえで、枠組みは変えて、合わせて高齢者のことも考慮されていると良い。

#### ●事務局

2024年度は、全体の講座回数は減る予定である。理由は、施設の老朽化に伴う費用、電気代の上昇など、全体としての予算が厳しいため。また、アウトリーチやオンラインの配信を行う予定であり、一つの講座にかかる負荷が大きくなるため。予算編成中であり未確定であるが、減る中でもなるべく減らさないようにとは考えている。

昨年度の運協でも整理したとおり、市民大学では人づくりを重点的にやっていくことになっている。現状の市民大学において、最終回の振り返りの回に積

極的に参加してくれない受講者もいると聞いている。そこで、次のステップに進みたい方向けの仕組みがあった方が良くと検討し、ゼミを考えた。ゼミがその先のまちチャレや地域活動につながるきっかけになると良い。今回は裾野を広げることに重点を置いているが、その中から、少数でもゼミに進み、そして地域での活動に進む方を生み出す仕組みをつくりたい。今までとは発想を変えて、回数は短くなってもその先でゼミを実施し、その結果を見ながら、次の展開を考えたい。講座回数については、以上のような色々なことを考えて、現在の案に留めている。

このゼミへの参加のきっかけづくりや呼び込みも必要となるが、どのような方法があるか、その辺りの意見も伺いたい。

#### ●事務局

ゼミにはファシリテーターが必要だと考えている。また、どのように講座からゼミへ進んでもらうのか。ご意見をいただきたい。

#### ○T委員

市民大学は、元々社会の支えになるための人材育成を目指していた。座学で勉強するというだけでなく、実践につながる講座を行い、実践を通して社会にでていくという講座の仕組みが必要である。

#### ○U委員

ゼミは、その講座の受講者の中から参加者を募るということか。例えば福祉講座で言えば、福祉講座前期・後期各30名ずつの受講者に参加を呼びかけて、希望者10名に絞り実施するのか。そうであれば、ゼミの周知にあたっては、福祉講座で取り扱ったテーマから一つを選んでディスカッションや調査を行うなどの内容を提案し、参加を呼びかけるのか。ゼミの設定をどのように講座受講者に伝えるのか。

#### ●事務局

講座で学んだ中から特定の分野を深める案や、模擬的に次年度の福祉講座で学びたい内容を受講者が企画する案など、いくつか案はあるが、具体的にはまだ固まっていない。どのような内容が受講の動機になるか、そして活動につながっていくのか、今の時点では考えはまとまっていない。

#### ●事務局

実践的な講座であっても講座は基本的には受け身な姿勢が多い。何かを活動

するにあたっては、受け身からポジティブに変えなければならないが、そこにギャップを感じる方も多いように思う。そこで、実践している方を交えてワークショップを置き、次の活動に進むためのステップとしたい。ゼミは、参加者が地域での活動を理解しやすいようなステップを作るという意味合いがある。受講者のケアや意見交換のしやすさなどから、ある程度目の届く範囲の少人数としている。

施設改修によって例年と同じことができない時期なので、実験的にゼミを設けてみて、その結果により今後の手法を模索していきたい。テーマを絞って実施するのか、活動へのつなげ方に重点を置くのかは考えていく必要がある。

#### ○T委員

実践講座というのは、実践している人に来てもらうとともに、あわせてワークショップも行っている。それが次につながる。町田で実践し経験されている方に学ぶ機会があり、そしてワークショップも組み込んでいくことを考えられると良い。

#### ○S委員

ゼミは、講座を受けた人たち同士で、自主的に何かを学ぶということか。

#### ●事務局

アウトプットする機会にしてもらい、できれば、講座受講後の活動につながり得る内容になると良いと考えている。

#### ○S委員

実践をしている人との接点は、既に環境講座の中にもあるので、ゼミの中でというのは違うように思う。ゼミをやるとしても、受講者同士の信頼関係も必要となる。3, 4回顔を合わせたくらいでは、ゼミで自分の考えを素直に言い合うような環境は作りづらいような気がする。例えば、前期・後期を分けて、1年間で8回から10回講座の形の方が、ゼミはやりやすいと考える。

#### ●事務局

現役世代にとって通年講座で原則全回参加という仕組み自体が、心理的に参加しづらいのではないかと考えている。何が最適は分かっていないが、そういう方への配慮として、回数を減らしている。しかし、S委員のご意見も理解できるので、事務局でも再考したい。

## ○V委員

現状は7回講座なので、テーマを広く浅く取り扱うことができる。4回講座では広く浅くというよりも、ゼミ実施に向けた形での講座づくりを前提とする方法もある。ところが、前期・後期に分かれているので、前期の方は期間が開いてしまい意欲が続くかどうか心配なので、後期の受講者が中心になるのかもしれない。4回講座という前提であれば、的をきちっと絞った形でやれば、ゼミ形式に限らず深く学ぶ方へ進む話はできる。そのためにはプログラムからそこを目指すことを考えればよい。

同時に、福祉講座のプログラム委員は、障がいに強い方が多いが、高齢者に向けた内容についてはよくわからない部分もある。受講者の興味はそこまで深いものではなく、浅い部分で興味をもって受講しに来ているようで、とても良い先生を招いたとしてもあまり受講生に伝わらない。ゼミにつなげるという意味では、浅い部分できっちりやって、一方でもっと学びたいという余韻を残しておけば、ゼミに参加する雰囲気になるのではないか。講座づくりそのものをそちらに向けていければと思った。

## ○W委員

歴史講座の通史は毎回同じことをやっている。理由は、町田の歴史を知りたい人が多く、ニーズがあるから。仕事を定年になり時間が取れるようになった方、現在は町田に住んでいても元は他市からの転入で町田のことはあまり知らないという方が参加してきている。別の歴史の話では、今まで既に勉強している方もかなり応募してくる。しかし通史は同じ話なので、何回も聞く必要がなく、新しい方が来る。通史の中には歴史散歩のような現地学習もあり、町田にも歴史があることを感じてもらえる。地元にいるけど地元の事を知らない人は多いが、歴史散歩で勉強することによって、普段車で通っている道なども歴史上の意味付けが分かる。ゼミは分からないが、意外と歴史は市民ニーズが高く、定員割れをしたことは一度もない。また講座で歴史の話を聞いて、町田を好きになる人が多い。好きになることがまず大事で、そこから地域で問題が起きたら助けてもらおうという段階で考えている。

## ○X委員

10年前に引っ越してきて、当時は町田のことを全く知らなかった。町田のことを知らなければと思い、市民大学の歴史講座を受講した。講座は面白く楽しかったし、周りにもPRするくらい町田のことが好きになった。その後、市民大学で自然、健康などほとんどの講座を受講した。介護の仕方も講義の中で取り扱ってもらいたいという気持ちもある。何度か転居をしているが、町田の

市民大学は充実していて良いと思っている。プログラムもよく検討して作っているということもプログラム委員になって知った。

●事務局

今日、今回いただいたご意見や課題等にお答えできるよう、引き続き検討し、次回、検討結果をお示ししたい。予算の関係と若い人達を呼び込むための両面の理由があり、回数としては減らしていくことはご了承いただきたい。

●事務局

今回の検討内容については、10月16日の運協に皆様のご意見を紹介しながら、運協委員の方からも意見も伺いたいと思っている。引き続きよろしくお願ひしたい。

3 その他

なし